

学校名	山梨県立盲学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 88回 (運動会、オンライン等)
	地域交流 : 279回 (治療奉仕、花植え、通信)
	居住地校交流 : 2回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流 : (特別活動 等)
実施した学部・学年	小学部 (2年生・5年生)、中学部 (3年生)
実践の様子	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> 沖縄県立盲学校 との交流 </div>	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> (小学部2年生) </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> 京都府立盲学校 との交流 </div>
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> (中学部3年生) </div>
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> 沖縄県立盲学校 との交流 </div>	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> (小学部5年生) </div>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施に向け、担当教師は相手校の担当の教師と丁寧に事前の打ち合わせを行い、お互いの児童や生徒の実態、学習進度等の確認を行った。 ・同年代の盲学校の生徒と交流をすること、他の都道府県の盲学校・地域の様子を知ることが目的に、オンラインによる交流を実施した。お互いの盲学校や府県について発表や意見交換、また様々な授業や活動を通して、なかなか話すことのできない県外の友達とコミュニケーションを取ることができ、貴重な経験をすることができた。 	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・使用するオンラインの回線の種類や繋がり方により、途中で途切れそうになった時もあったが、お互いの学校のPCリーダー等の協力により、授業の中では大きなトラブルもなく実施をすることができた。オンラインでの実施方法をより工夫していきたい。 ・まだ正式には決定していないが、児童より来年度以降もオンライン交流を実施したいという意見もでてきている。交流が継続できるよう、早めに実施に向けた書類を交わし、新年度の早い時期よりスムーズに実施ができるよう、取り組んでいきたい。 ・令和4年度の、全国校長会加盟校の、オンラインによる交流希望リストにて、相互の学校のニーズにより連携が可能になっている。これらの情報を有効に活用し、効果的なオンライン交流を実施していきたい。 	

学校名	山梨県立ろう学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 30回
	地域交流 : 8回
	居住地校交流 : 26回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	交流持久走大会（体育）
実施した学部・学年	小学部（全学年）
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>学年ごとに試走を行い、全学年での交流持久走大会に臨んだ。同級生の走りに刺激を受け、意欲を高めることができた。毎年交流を積み重ねることができているので、少しずつ慣れてきており、「去年より速くなっているね」と児童同士でやりとりする様子も見られている。山梨小学校の児童も、本校の児童が分かりやすいように、一人ずつ話してくれたり手話や指文字を覚えて使ってくれたりする等の様子が見られ、双方に学びが深まっていることを感じる。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も連絡を密に取り合い、目的に合った活動を設定していく。 ・コロナ禍において、感染症対策を施しながら、方法や内容を工夫し、児童同士が顔を見合わせてかかわれる機会を確保していきたい。 	

学校名	山梨県立甲府支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 14回
	地域交流 : 4回
	居住地校交流 : 8回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流（特別活動）
実施した学部・学年	中学部
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>中学部では敷島中学校とオンラインでの交流を2回行った。互いに行事や学習の成果を発表したり、「さいころトーク」で質問をし合ったりした。昨年度まで行っていたビデオ交換とは違い、手を振ったり、声をかけたりし、直接やり取りすることができた。2回目の交流では本校の生徒は「ソーラン節」の演武、敷島中学校の生徒は合唱を発表した。行事や学習の取り組みを発表する場を作ることで、生徒たちが達成感を味わうことができた。「さいころトーク」での質問は互いのことを知ることができ、生徒から「また、やりたい」との声も上がり、大変盛り上がった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・当日に機器の不具合があったため、前日までに調整を十分に行うことと、相手校との綿密な打ち合わせを行う。 ・オンラインでの交流では、県立学校と公立学校の使用する通信アプリが違うため、どのように通信するかの検討が必要である。 ・互いに学習の成果など活動を見せ合うような内容にできると良い。 ・感染症の状況に応じ、直接交流ができると良い。感染症対策を講じながら、交流方法を模索していく。 	

問い合わせ担当（ 清水 亜希子 ）

<p>学校名</p>	<p>山梨県立あけぼの支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 7回</p>
	<p>地域交流 : 1回</p>
	<p>居住地校交流 : 17回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>学校間交流：三校間交流会をしよう (自立活動、道徳科、総合的な探究の時間)</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>高等部・1～3年</p>
<p>実践の様子</p>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>本校（高等部）と甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）、日本航空高等学校（国際クラブ）の3校でTeamsを使い、オンラインでの交流を行った。本校①②グループはクイズなどを行い、互いにやり取りを楽しむことができた。本校③④⑤⑥⑦グループはその場で画面を通したやりとりが難しいため、学習の様子を記録し、動画で発表した。甲府商業高等学校からは、ダンス部の発表があり、画面にダンスの様子が映し出されると視線を向ける様子が見られた。日本航空高等学校からは、国際クラブの野外活動の様子を紹介する動画の発表があった。他の2校の生徒からの質問に答えるなど、言葉でのやり取りを行ったり、互いの様子を見合ったりすることが出来た。本校の生徒達は、普段関わることがない他校の生徒達の様子を見ることができ、互いの活動に感想を伝え合うなど、とても良い刺激になった様子だった。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>・事前に2回の3校担当者が集まったのオンライン接続テストを行ったが、当日動画再生がスムーズに行かない場面があったので、再生方法を見直すことや、事前に動画を相手校に送っておく等の対策をとることが課題である。 ・直接交流がなかなか叶わない中、昨年に引き続き今年度もオンラインでの交流を行ったが、「互いを知る」という点では、達成できたと思われる。今後は更に一歩進めて、「互いのことを考え合う」ことができるような交流を行えると良い。</p>	

学校名	山梨県立わかば支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 18回 (3学期に予定1回)
	地域交流 : 6回 (3学期に予定1回)
	居住地校交流 : 14回 (3学期に予定4回)
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	地域交流：震災を学ぶ（生活単元学習）
実施した学部・学年	高等部3年生
<u>実践の様子</u>	
 	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>南アルプス市社会福祉協議会、同市防災リーダー連絡会の方と地域交流を行った。本校で唯一直接交流ができた交流である。3年生は修学旅行で福島を訪れ、東日本大震災の学習をしてきた。その学習に関連して、実際に現地でボランティアとして活動された方の講話を聞いたり、本校からは学習グループごとに震災について発表したりした。修学旅行後に実施できたことで、震災についての事後学習を深められた。講話の中では現場での活動の様子を映像やスライドで見ること、命の尊さや防災の大切さを学ぶことができ、またこのような体験をされた方が身近にいることを知ることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>地域交流は相手先の通信環境でオンラインでの交流が難しく、作品展等の間接交流となることが多い。コロナ禍以前は、地域の老人会の方や南アルプス市社会福祉協議会の紹介の方から戦争体験の話の聞いたりする交流だった。コロナ禍になり、高齢になっている方に来校していただくことが難しく、昨年度から試行錯誤をしながら地域交流に取り組んでいる。南アルプス市社会福祉協議会を通して、社協に所属している団体や関係団体の方を紹介していただき、日ごろの学習や修学旅行等に関連して、共同学習を意識した実践をしていきたい。</p>	




問い合わせ担当（ 宮良 かおる ）

学校名	山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 4回
	地域交流 : 4回
	居住地校交流 : 6回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	芋掘りをしよう（特別活動）
実施した学部・学年	小学部1～6年生
<u>実践の様子</u>	
	
はじめの会	大きい芋に注目が集まる
	
苗植えの様子	大収穫にみんな満足
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>地域で活動されているグループの方3名が来校し、芋掘りを行った。1学期に一緒に植えた苗が大きく生長し、たくさんの芋が実った。大きな芋が掘れるたびに、地域の方も児童も共に歓喜の声を上げていた。地域の方には畝ごとに分かれていただき、順番に一人ずつ作業したことで、じっくりかかわり合いながら活動することができた。大収穫だったことでみんなの気持ちが盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができた。昨年度も同じ方々と交流したので、地域の方のお名前を憶えている児童もいた。交流後、校外でお会いすると自然に声を掛け合うようになり、地域との関係が深まったと感じた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗植えから芋掘りの間、なかなか授業の中でサツマイモの生長の様子を見たり、手入れをしたりする時間をとることができなかった。授業の計画に組み込んでいくことが難しい。 ・ サツマイモの栽培は地域の方が造詣があり、指導を受けながら取り組む題材として適当だった。しかし、この地域ではここ数年鳥獣被害があり、畑で作物を作る活動が難しくなっている現状がある。地域の方々と栽培以外にどのような活動で交流していけるのか模索する必要が感じられた。 	

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 7回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 16回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：上野原高等学校との交流（職業Ⅱ）
実施した学部・学年	高等部1～3年生
実践の様子	
  	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>感染症予防をしながら3年ぶりに対面での交流を実施した。相手校の生徒が数名ずつ各作業班に参加し、全体会はオンラインで繋いでリモートで行った。作業班での活動は日ごろ継続して行っている内容であるため、本校生徒は自信をもって取り組むことができた。2回実施し、2回とも同じメンバー構成で行うことで、短時間であったが、活動を通して自然と会話が生まれ、比較的障害の重い生徒が自分から相手の手を取ってかかわろうとする様子も見られた。休憩時間や見送りの時間には、同年代らしい会話や笑顔が見られるなど自然なかかわり合いが見られた。事前にプロフィール交換を行ったことで期待感が生まれ、当日のスムーズな交流に繋げることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、交流できる時間設定が短かった。事前学習の中でオンライン等も活用しながら、当日の活動時間を確保できるようにする。 ・昨年度のオンラインでの交流があったからこそ、今年度の対面での交流に自信をもって参加できた生徒もいた。オンラインの活用や間接的な交流等も含め、生徒の実態に即した形で実施できると良い。 ・オンラインは、通信環境によっては途切れるなどのトラブルも起こりうるため、設定も含め事前の確認作業をしっかりと行うようにする。 	

問い合わせ担当（ 山口 清美 ）

<p>学校名</p>	<p>山梨県立ふじざくら支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流： 9回</p>
	<p>地域交流： 3回</p>
	<p>居住地校交流： 12回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>音楽を楽しもう（音楽 特別活動）</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>中学部全学年</p>
<p>実践の様子</p>	
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">      </div>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>銘楽堂（めいがくどう）とは初めての地域交流だったが、音楽鑑賞で終わらないように、生徒の知っている曲や学園祭で使用した曲を演奏リストに入れていただいた。生徒からは「知っている曲だ」「学園祭で踊った曲だ」という声上がり、演奏に合わせて楽しそうに踊る姿が見られた。また、休憩時間には話をしたり、一緒に写真を撮影したりして触れ合うための時間を設けた。生徒たちは楽器や音楽のことなど、いろいろな話をして積極的に関わり合いを楽しんでいる様子だった。音楽を通してお互いを意識し、理解しようとする交流会となった。交流会後の意見で「また一緒に踊りたい」「楽しかった」という言葉が聞かれた。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>・共生社会の基盤を作ることを目的とした地域交流としては、社会貢献や長期的な活動としての課題はあるが、生徒の実態や実施環境を考えると現状のような交流会を通して、社会に知ってもらい活動を続けていくことが大切である。次年度以降も音楽鑑賞で終わらない工夫をしながら実施していきたい。また、地域に活動や児童生徒のことを知っていただくために、新聞や広報等への掲載も依頼していきたい。また、地域交流の意義を深めるために、この交流をきっかけにして音楽を通じた地域の他団体や学校との触れ合いを広げられるような計画を検討していきたい。</p>	

<p>学校名</p>	<p>山梨県立かえで支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 19回</p>
	<p>地域交流 : 5回</p>
	<p>居住地校交流 : 16回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>生活単元学習・特別活動</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>小学部</p>
<p><u>実践の様子</u></p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>	
<p><u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u></p>	
<p>感染症予防の観点から、ビデオ通話システムを用いて交流会を行った。昨年度は4年生1学年のみの試みだったが、今年度は2～6年生に学年を広げて実施した。画面越しではあるが、相手の表情を見ながらやり取りでき、すぐに反応も返ってくるので、児童にとって分かりやすい内容であった。</p> <p>事前の取り組みとして、自己紹介カードを作成したり、学校紹介ビデオを自分たちで撮影したりするなど、相手分かりやすい提示方法を教師と一緒に考えることができた。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・リモートでの活動に児童生徒及び教師も慣れてきたが、画面に映す映像や提示物などを工夫して、リモートならではの活動内容を模索したい。 ・相手先にも通信に係わる環境や機器を扱う技術が必要となるので、事前の打ち合わせやリハーサル等を綿密に行うと良い。 ・相手先や交流の目的に応じて、間接交流とICT機器などを適宜活用したい。 	

問い合わせ担当（麻川 貴子）

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 4回
	地域交流 : 11回
	居住地校交流 : 0回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流（石和東小学校6年生）：植栽、清掃 （流通・サービス）
実施した学部・学年	高等部2・3年 環境メンテナンスコース
<u>実践の様子</u>	
	
プランター作り	スクイージーを使った窓清掃
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>2グループに分け、実技指導をした。6年生に対して、寄せ植えの手順や清掃の楽しさなどをどのように教えたらよいのか、本校生徒は事前に悩んだり考えたりして、交流会に臨んだ。小学生が1, 2年次に交流を行っているため積み重ねられた経験がありスムーズに交流に入れた。一方、植栽や窓清掃といった初めての活動に新鮮な気持ちで取り組めたことも良かった。児童の興味深げな顔つきや、スクイージーできれいに窓ふきができた喜びの表情は、本校生徒にとって大きな達成感や成就感を得る経験となった。</p> <p>後日送られた後日の感想文の多くには、コロナが収まったらマーケットに来てみたいという希望や、担当した環境メンテナンスコースの生徒に感謝の言葉が寄せられた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、屋外で交流を行い、2グループに分けてそれぞれ別の場所で活動をした。校舎内は見学のみだったため、校舎内の清掃（床清掃や机拭き等）もできるとよい。 ・2学期から、桃花ダイスキマーケットのチラシ配付を小学校にも復活させることができた。小学生が家庭で話し、家庭から地域に広がり、地域交流の充実につながっていくように取り組んでいきたい。 	

<p>学校名</p>	<p>山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 0回</p>
	<p>地域交流 : 7回</p>
	<p>居住地校交流 : 0回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>特別活動（地域清掃）</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>全学園（小学部・中学部）</p>
<p>実践の様子</p>	
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>1学期は、小中学部合同で校舎玄関前や児童相談所の植え込みの除草作業を行った。児童生徒同士で分担をして、決められた区画を雑草の根から丁寧に除去している姿を見ることができた。2学期は、小中別れ、小学部は中庭の除草作業、中学部は玄関前の除草作業や学校周辺の落ち葉拾いを行った。中学部では作業中に、地域の方とあいさつをするなど交流を図ることができた。地域の方との触れ合いは限られたものであったが、自分たちが生活している施設や学校を外から見たり、他者の気持ちを考えたりして美化活動することで学校と地域社会の関係を知ることができた。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>本校は、児童相談所より短期の心理治療が必要であると判断・措置され、「山梨県立子ども心理治療センターうぐいすの杜」へ入所、または通所している児童生徒が在籍する特別支援学校である。児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況があるが、今年度も清掃を通して、地域を知ることや、近所の方々とのあいさつ等でふれあう機会ができればと考え、計画・実施を行った。またホームページで活動等の写真を定期的に掲載したり、甲府伊勢四郵便局に各部の作品展示をさせて頂いたりして、地域への発信をするようにした。新しい試みとして7月、10月と地域だよりを各240部印刷・発行し、地域の方々に本校の活動内容を知ってもらう機会を作った。他方、災害時の一時避難所としての本校の役割を自治会の方々に周知してもらうとともに校内を見学して頂いてマニュアル作りを進めている。今後も、地域清掃を継続的に実施し、ふれあいの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらに交流の可能性を探っていくことが望ましい。</p>	

学校名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 7回
	地域交流 : 3回
	居住地校交流 : 3回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	生活単元学習「梨大附属小4年生となかよくなるろう」
実施した学部・学年	小学部全学年
<p>実践の様子</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校にポッチャセットが複数あるため、本校児童理解と併せて一緒に障害者スポーツを楽しむことができるよう、ポッチャを活動内容に含めた。初めてポッチャを体験する児童が多く、盛り上がった。全員が体験できるよう、附属小1クラスを3グループに分け、低学年学級グループ・中学年学級グループ・高学年学級グループごとに活動した。 ・感染症対策を踏まえ、ディスタンスを保ちながらも同じ場で一緒に楽しむことができる活動としてポッチャとダンスを設定した。ダンスは、本校児童が楽しんで踊ることができる曲とした。終わりの会では、附属小児童から「楽しかったです。」「ダンスが上手でした。」等の感想発表があった。 ・直接交流の前に、教室見学と質問タイムを設けた。自分の学校との違いに気付き、積極的に支援学校教師に質問していた。本校児童の理解の一助となった。 	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、感染症対策のため、附属小学校3クラスが時間差で来校する設定としたが、1クラスあたりの交流時間は短くなってしまった点が課題だった。「もっと交流を楽しみたかった」という思いを次の交流に繋げることができるよう、来年度の実施方法を検討する必要性が生じた。現段階では、5月に本校にて今年度と同様の内容で交流を行い、まずはお互いを知ることから始めることを予定している。11月には附属小での交流が実施できると相互理解が深まると考え、附属小と連絡を取り合い、来年度の仮の実施日を予定してあるが、来年度早々に交流の方向性を協議していく必要がある。 	